

1-1 建物概要

建物名称		
竣工年月	2019年10月	予定
建設地	埼玉県川口市	
用途地域	第一種住居地域	確定
省エネルギー地域区分	6 地域	
構造・構法	木造	確定
階数	2	
敷地面積	160 m ²	確定
建築面積	82 m ²	確定
延床面積	149 m ²	確定
世帯人数	3	確定

仕様等の確定状況	建物の仕様 持ち込み家電等 外構の仕様	確定 仮 仮
評価の実施日	2019年6月10日	
作成者	西尾 夢	
確認日		
確認者		

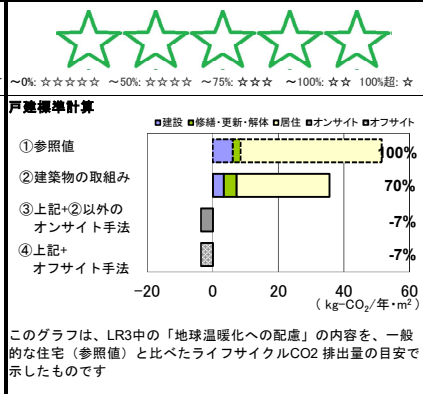
1-2 外観



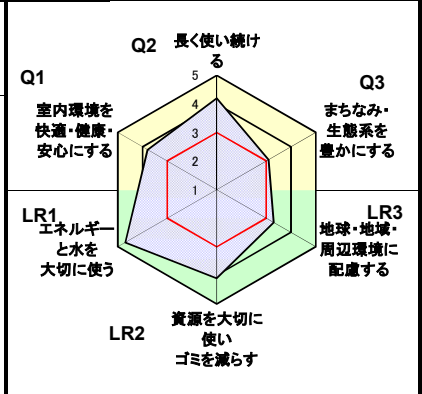
2-1 戸建の環境効率(BEEランク&チャート)



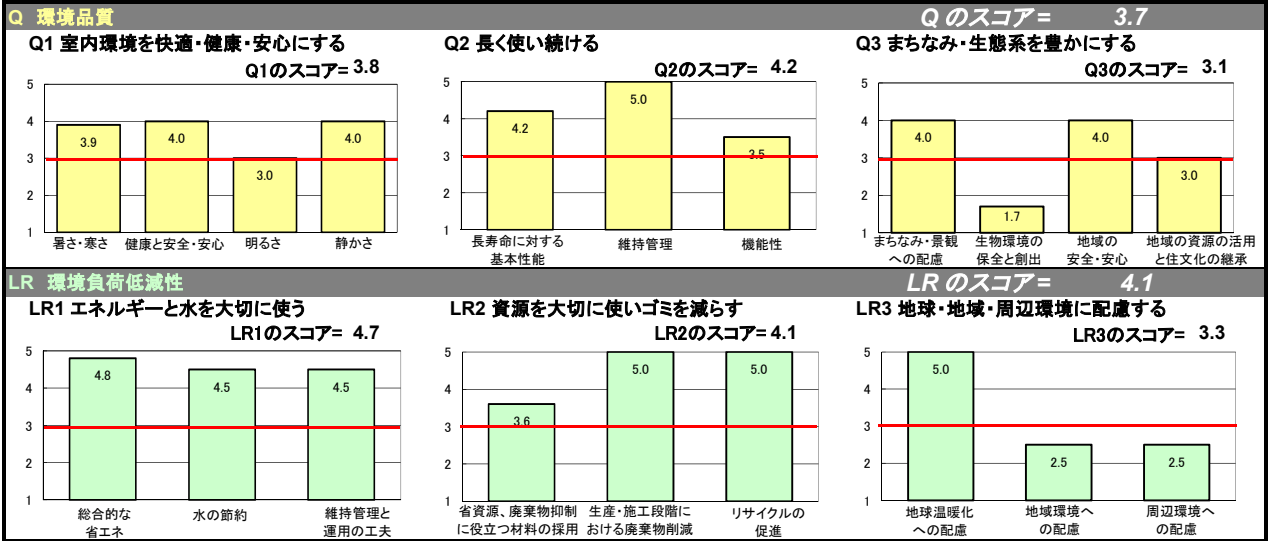
2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

<p>総合</p> <p>優れた断熱性能と高性能な設備の利用で高い省エネルギー性を実現し、環境負荷を抑えながらも快適に居住できる住宅としている。また、劣化対策・耐震性・維持管理対策においても必要な措置が講じられているとして長期優良住宅の認定も取得している。長く安心・安全・快適に暮らせるように、住まい手の暮らし方に応じた住まい方の提案や維持管理についてのサポートも充実させている。</p>	<p>その他</p>
<p>Q1 室内環境を快適・健康・安心にする</p> <p>断熱等級4を超え、HEAT20の外皮性能基準でG2レベルの外皮性能(U値0.43)を備えていることで、冷暖房期のエネルギー消費量を抑えつつ快適で健康に生活できる住宅とすることができている。ほぼすべての居室で2方向開口を確保し、通風・排熱を促進する取組も実施している。</p>	<p>Q2 長く使い続ける</p> <p>長期優良住宅認定において、劣化対策、維持管理・更新の容易性、省エネルギー性それぞれで最高等級の基準に適合しており、長く安心して住み続けることができる住宅である。アフターサービス体制やメンテナンスについてのサポート体制も整えている。</p>
<p>LR1 エネルギーと水を大切に使う</p> <p>節水設備やLED照明の使用、太陽光発電設備の設置により1次エネルギー消費量はBEI 0.34となり、基準1次エネルギー消費量を大きく下回る設計としている。HEMSを活用し電力使用量を管理・制御できるようにすることで消費エネルギー削減に積極的に取り組んでいる。</p>	<p>LR2 資源を大切に使いゴミを減らす</p> <p>構造躯体には持続可能な森林から産出された木材を使用することで資源を大切に使う配慮がなされている。構造躯体に利用する部材はプレカットにより現場加工の削減・廃棄物削減に取り組んでいる。また、外壁・天井の下地材や断熱材にはリサイクル可能な材料を使用し省資源化に配慮している。</p>
<p>Q3 まちなみ・生態系を豊かにする</p> <p>建物の形状、高さ、色彩について、周囲のまちなみから突出しないものとして調和を図っている。外構計画としては植栽や舗装の計画など、良好な周辺環境の形成に配慮している。</p>	<p>LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する</p> <p>住宅内に資源ごみ5種類の分別ストックスペースを設けることで日常生活で排出する廃棄物の処理負荷の抑制を図っている。また、敷地外の熱的影響の低減に資する取り組みとして、下記の卓越風向に対する見付面積率を60%未満として敷地周辺への風通しに配慮している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (環境品質), L: Load (環境負荷), LR: Load Reduction (環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (環境効率)
 ■CASBEE全体の表記ルールに従えば、CASBEE-戸建(新築)の場合、BEE₁、Q₁、LR₁などとすべきであるが、本シート上では簡略化のためHを省略した
 ■「ライフサイクルCO₂」とは住宅の部材生産、建設から居住、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量であり、ここでは住宅の寿命年数と延床面積で除した値を示す
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q₂、LR₁中の住宅の寿命、省エネルギーなどの項目の評価結果から自動的に算出される(「戸建標準計算」の場合)
 ■ライフサイクルCO₂の算定条件等については、マニュアルおよび「CO₂計算」シートを参照されたい